

LRQA による調査

Climate focus
(気候変動にフォーカスする)
地域別レポート

Japan Report

サステナビリティの専門家に基づく
環境動向の分析と洞察

LRQA



序文

[戻る](#)[次へ](#)

LRQA はグローバル調査を実施し、組織が自社全体およびサプライチェーンに適用される環境サステナビリティに関する準備について、どの程度自信を持っているかを把握することに注力しました。これは、組織全体とサプライチェーンの両方を対象としています。

LRQA は、これらの組織内で働くサステナビリティの専門家が、環境への取り組みをどのように測定しているのか、また組織内でのデータの検証や環境問題の導入と理解に関して大きな障害に直面しているかどうかを知りたいと考えました。

環境保護への取り組みを実証することにコミットしている組織は、競争優位性を獲得しつつあります。本レポートでは、このような競争優位性の背景にある理由を、日本独自の傾向を踏まえて、世界レベルと地域レベルの両面から考察します。

調査の概要

- 調査は 2022 年に実施されました。
- サンプルサイズ：全世界の 1,123 名（11 カ国 13 業種）、いずれも組織内でサステナビリティに関連した特定の職責を担当。
- 調査対象となった国は以下のとおりです。中国、フランス、ドイツ、イタリア、日本、オランダ、シンガポール、スペイン、タイ、イギリス、アメリカ。



環境保護への取り組みを実証
することにコミットしている
組織は、競争優位性を獲得し
つつあります。

グローバル概要

[戻る](#)[次へ](#)

主要統計データ

93%

回答者の 93% は、環境目標に向かって継続的に前進する上で、組織内で少なくとも 1 つの主な障害があると認識しています。

75%

75%

回答者の 75% は、他の領域と比較して、気候変動と環境管理の目標に最も自信を持っていません。

46%

現在、46% の組織が独自にデータを検証しています。

38%

LRQA が調査を行った組織の 38% は、現在、少なくとも 1 つの国際的に認められた規格を通じて進展を図っています。

回答者の 75% は、今後 5 年間で独立した検証が増えると予想しています。

日本における環境サステナビリティの測定

 内部監査から独自の認証と検証に至るまで、日本の組織が環境への取り組みをどのように監視しているかについて質問しました。

33%

環境のサステナビリティに関する取り組みの監視に関しては、世界平均が 44%であるのに対して、内部監視の形式を使用しているのは日本の回答者の 33%に過ぎず、これは中国の回答（33%）と同程度でした。

50%

平均して、サステナビリティの専門家の 50%が、環境サステナビリティの実績について独立した第三者による評価を利用していると報告しています。

21%

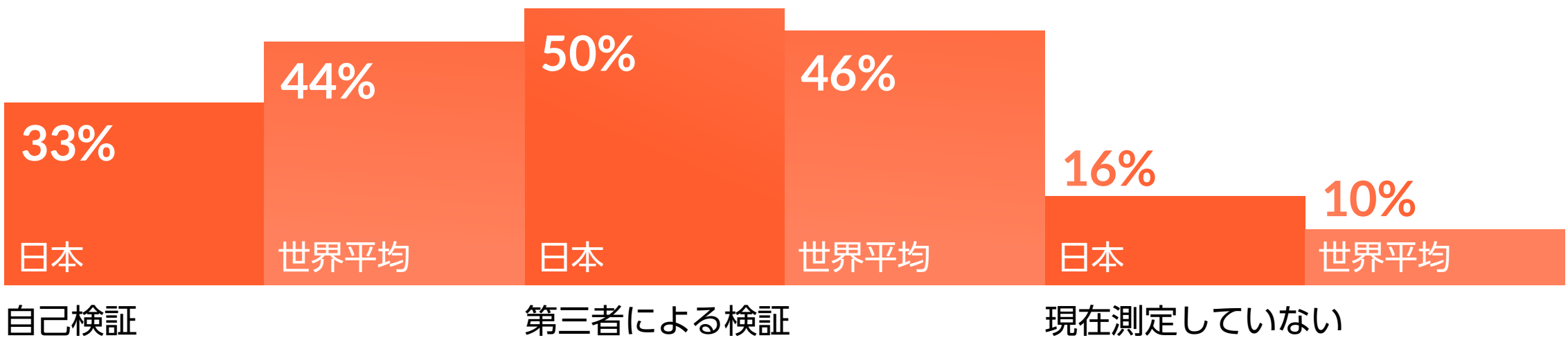
日本はサプライチェーンの環境のサステナビリティに関する取り組みの監視を開始することに最も熱心であるようで、回答者の 21%が今後 12 か月以内に監視を開始することを希望しています。

LRQA 専門家の視点

日本では長年、マネジメントシステムの規格が積極的に取り上げられてきました。これらのシステムはすでに独立した認証を受けており、内部評価のみに依存しているわけではありません。

日本組織は、自らの組織内でのパフォーマンス評価や環境のサステナビリティの改善がある程度成熟した段階に達しているため、自社の組織にとどまらず、サプライチェーンの環境のサステナビリティに目を向けることができるようになっていきます。

現在の環境への取り組みをどのように評価していますか。または、今後 12 か月以内にどのような計画を立てていますか。



日本における環境サステナビリティの将来

LRQA は日本の組織に、今後 5 年間で検証がどのように変化する可能性があるかを質問しました。

68%

グローバル調査の回答と同じく、日本の組織の多くが、検証が増えると予想していました（68%）。

35%

検証が増えると予想される領域について見ると、環境のサステナビリティの各テーマは、平均で回答者の投票の 35% を獲得しました。

37%

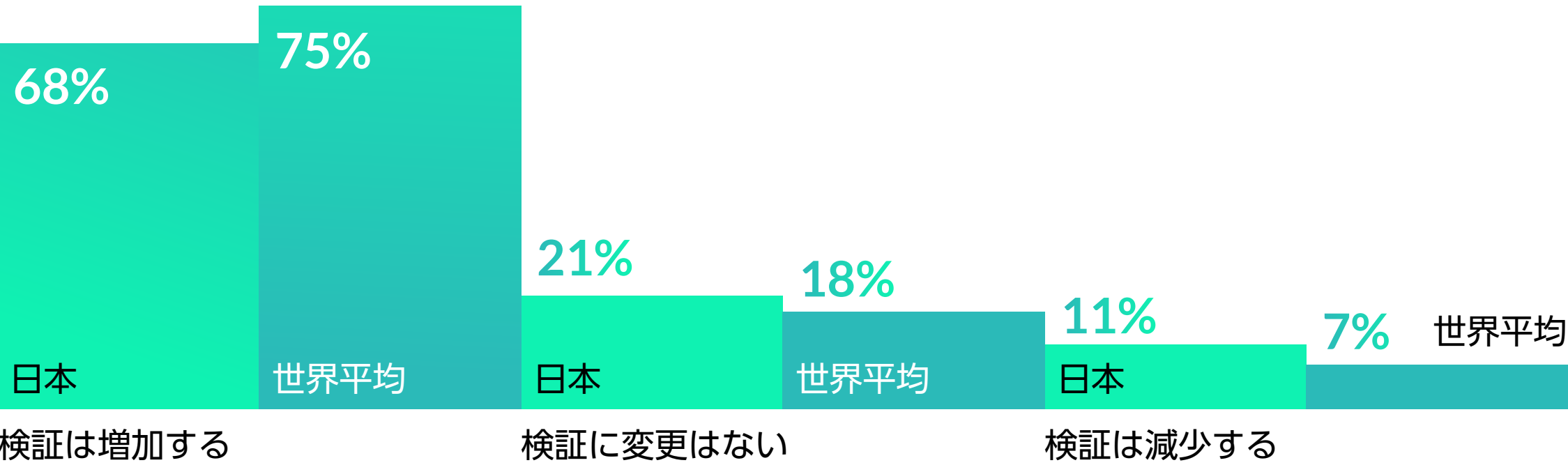
検証の増加が最も予測されているサステナビリティのテーマは炭素削減でした。

LRQA 専門家の視点

日本の組織の回答者は、調査対象となったすべての国の一般的な認識と同様に、サステナビリティのあらゆるテーマにおいて、認証と検証に対する将来の需要が高まることを認めています。

これは特に「炭素排出削減」に当てはまります。ここでは日本の業界がすでに何年も規制の対象となっており、進化を続け、セクター別の適用範囲が拡大しています。

今後 5 年間で、組織内の環境パフォーマンスに関する独立した検証が（変化があるとすれば）どのように変化するかと予想していますか。



日本や世界で見受けられるように、サステナビリティの専門家は、環境問題に組織が取り組む必要性と、利害関係者と規制という推進要因の重要性の高まりを認識しています。

サステナビリティへの取り組みは長い道のりであり、進化し続けています。世界的に見て、さらなる理解と検証の活用が求められていると思われます。

環境のサステナビリティの推進要因がもたらすリスクと機会は大きいものです。独立した認証と検証により、組織はビジネス上の意思決定の基礎となる全体像と精確なデータを特定する自信を獲得できます。

これらの基盤によって、組織はリスクと機会を管理し、競争優位性を獲得し、利害関係者とより効果的にコミュニケーションを取って信頼を築くことができます。

しかし、独立した検証については、国際的に認知された規格を使用している、あるいはデータを検証しているのは、調査対象の半数以下です。

特に環境パフォーマンスに関連する、組織やサプライチェーンにおける認証と検証の需要の増加は、この領域にまだ明らかな機会があることを意味します。

複雑性、リソース、知識不足は障壁になるかもしれませんが、LRQAのような組織であれば、プロセスを通じて組織に情報を提供し、支援し、ガイドするための能力、経験、グローバルな実績を有しています。LRQAは、サステナビリティが中核的なビジネス戦略と計画プロセスに完全に組み込まれるよう確実にするための支援を提供します。

この調査では、サステナビリティの専門スタッフにすでに投資している組織の見解について調べていることを忘れてはなりません。他の多くの組織、特に小規模な組織は、このレベルの専門知識を持っていないものの、環境問題に対処する上で同様のプレッシャーを経験することになります。

近い将来、ビジネスやバリューチェーンの保証サービスに対する需要が飛躍的に増加すると十分予想できます。

LRQA が提供可能な支援

[戻る](#)[次へ](#)

LRQA の保証サービスが、炭素排出量の削減から、環境管理、責任ある調達、倫理的生産、従業員の健康とウェルビーイングに至るまで、サステナビリティに関する課題のあらゆる側面において、前向きな変化と透明性の向上を促進し、クライアントの管理を支援します。

データ、情報、レポートを検証し、最も重要な関係者からの信用と信頼を高めます。

LRQA は、クライアントのパフォーマンスを向上させるために、業界の主要な規格とスキームに準拠したマネジメントシステムとプロセスを認証します。既存のプログラムの支援、またはクライアントと協力して新たなプログラムを構築します。クライアントのビジネスおよびサプライチェーン全体の特定のニーズを満たすプログラムです。

また、LRQA では、組織にベストプラクティスを導入するためのスキルと自信の獲得を目的とした、マネジメントシステムの教育研修コースも提供しています。

[LRQA の気候変動とサステナビリティ](#)





YOUR FUTURE. OUR FOCUS.

お問い合わせ

詳細については、
<https://www.lrqa.com/ja-jp/>
をご覧ください。



LRQA リミテッド

〒220-6010

横浜市西区みなとみらい 2-3-1

クイーンズタワー A10 階

本書に示すすべての情報が正確かつ最新であるように、LRQA リミテッドでは細心の注意を払っています。ただし、情報の不正確さや変更について当社は一切の責任を負いません。

LRQA は、LRQA Group Limited およびその子会社の商号です。詳細については www.lrqa.com/entities をご参照ください。

© LRQA Group Limited 2022

